

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-129997

(P2004-129997A)

(43) 公開日 平成16年4月30日(2004.4.30)

(51) Int. Cl.⁷

A63B 21/072

A47B 81/00

B65D 77/26

F I

A63B 21/072

A47B 81/00

B65D 77/26

テーマコード (参考)

3E067

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願2002-300219 (P2002-300219)

(22) 出願日 平成14年10月15日 (2002.10.15)

(71) 出願人 593117877

シンワエンタープライズ株式会社

大阪府東大阪市若江西新町 2-7-8

(74) 代理人 100074206

弁理士 鎌田 文二

(74) 代理人 100084858

弁理士 東尾 正博

(74) 代理人 100087538

弁理士 鳥居 和久

(72) 発明者 橋詰 友良

大阪府東大阪市若江西新町 2-7-8 シ

ンワエンタープライズ株式会社内

Fターム(参考) 3E067 AA11 AB99 AC04 AC08 BA05A

BC06A EB17 EC31 FC01

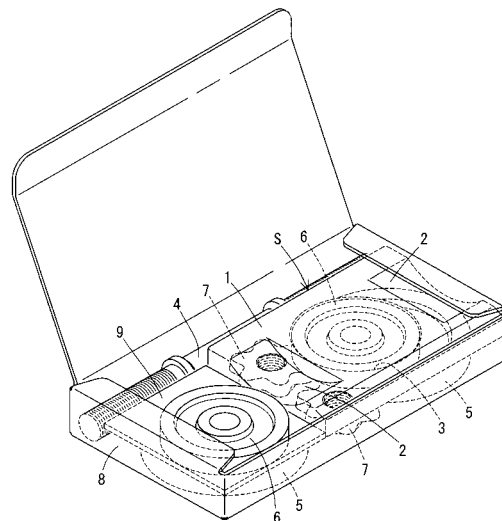
(54) 【発明の名称】 ダンベル置台

(57) 【要約】

【課題】コンパクトに箱詰めできるダンベル置台を提供する。

【解決手段】板状体1の上面両側部に組立状態のダンベルを保持する一对の係入溝2を形成すると共に、板状体1の下面中央部に一对の係入溝2の間に挟まれた収納凹所3を形成して、シャフト4からプレート5, 6を取り外してダンベルを解体したとき、そのプレート6を収納凹所3に嵌め入れて、箱8に詰められるようにする。

【選択図】 図4



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

板状体 1 の上面両側部に一对の係入溝 2 を形成して、シャフト 4 の両側にプレート 5, 6 を取り付けした組立状態のダンベルを、係入溝 2 にプレート 5 の下部を挿入して係合させることにより保持できるようにすると共に、板状体 1 の下面中央部に、前記一对の係入溝 2 の間に挟まれた収納凹所 3 を形成して、シャフト 4 からプレート 5, 6 を取り外してダンベルを解体したとき、そのプレート 6 を収納凹所 3 に嵌め入れられるようにしたダンベル置台。

【発明の詳細な説明】

【0001】

10

【発明の属する技術分野】

この発明は、ダンベルと共に箱詰めされてセット販売されるダンベル置台に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

一般に、腕の筋力トレーニングに使用されるダンベルとして、図 6 に示すように、シャフト 4 の両側に円盤状のプレート 5, 6 をナット 7 で取り付けしたものが使用されている。このようなダンベルは、家庭用として、図 5 に示すように、箱 8 に詰められてセット販売されている。

【0003】

20

【発明が解決しようとする課題】

ところで、ダンベルを組立状態で安定させて置こうとすると、プレートの下部を係合させる溝を備えた置台が必要となるが、上記のようなセットでは、箱のコンパクト化の要請から、置台が付属しておらず、ダンベルを使用する際、不便を感じることもある。

【0004】

そこで、この発明は、コンパクトに箱詰めできるダンベル置台を提供することを課題とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するため、この発明に係るダンベル置台は、板状体の上面両側部に組立状態のダンベルを保持する一对の係入溝を形成すると共に、板状体の下面中央部に一对の係入溝の間に挟まれた収納凹所を形成して、シャフトからプレートを取り外してダンベルを解体したとき、そのプレートを収納凹所に嵌め入れて箱詰めできるようにしたのである。

30

【0006】

【発明の実施の形態】

以下、この発明の実施の形態を添付図面に基づいて説明する。

【0007】

図 1 及び図 2 に示すように、このダンベル置台 S は、軟質プラスチックを素材とする板状体 1 の上面両側部に、底面が弧状となった一对の係入溝 2 を形成し、板状体 1 の下面中央部に、一对の係入溝 2 の間に挟まれた円形の収納凹所 3 を形成したものとされている。

40

【0008】

このようなダンベル置台 S を使用して、図 3 に示すように、シャフト 4 の両側にプレート 5, 6 をナット 7 で取り付けした組立状態のダンベルを保持するには、一对の係入溝 2 に大径のプレート 5 の下部を挿入して係合させる。このようにダンベルを置くと、ダンベルが不意に転がることがない。

【0009】

また、ダンベルのセット販売に際しては、図 4 に示すように、箱 8 の底に 2 枚のプレート 5 及び 2 個のナット 7 を置き、一方のプレート 5 の上に重ねた小径のプレート 6 をダンベル置台 S の収納凹所 3 に嵌め入れ、他方のプレート 5 にパッド 9 を介してプレート 6 を重ね、後方の隙間にシャフト 4 を挿入する。

50

【0010】

このようにダンベル及びその置台 S を箱 8 に詰め合わせると、箱 8 の内部のスペースを有効に利用できるので、箱 8 としてコンパクトなものを使用することができ、持ち運びやすく、保管時にも嵩張らない商品とすることができる。

【0011】

また、ダンベル置台 S が緩衝性を有し、パッドを兼用するので、包装に必要なパッドが減り、開封後のごみの量を減らすことができる。

【0012】

【発明の効果】

以上のように、この発明に係るダンベル置台は、板状体の上面両側部に組立状態のダンベルを保持する一对の係入溝を形成すると共に、板状体の下面中央部に一对の係入溝の間に挟まれた収納凹所を形成して、シャフトからプレートを取り外してダンベルを解体したとき、そのプレートを収納凹所に嵌め入れられるようにしたので、セット販売時にコンパクトに箱詰めでき、また、置台がパッドを兼用するので、開封後のごみの量を減らすことができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 この発明に係るダンベル置台の斜視図

【図 2】 同上の縦断正面図

【図 3】 同上の使用状態を示す斜視図

【図 4】 同上の箱詰状態を示す斜視図

【図 5】 従来のダンベルの箱詰状態を示す斜視図

【図 6】 ダンベルの組立状態を示す斜視図

【符号の説明】

S ダンベル置台

1 板状体

2 係入溝

3 収納凹所

4 シャフト

5, 6 プレート

7 ナット

8 箱

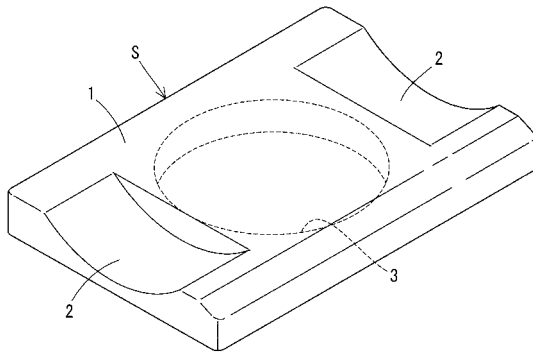
9 パッド

10

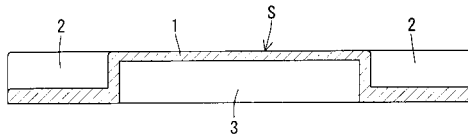
20

30

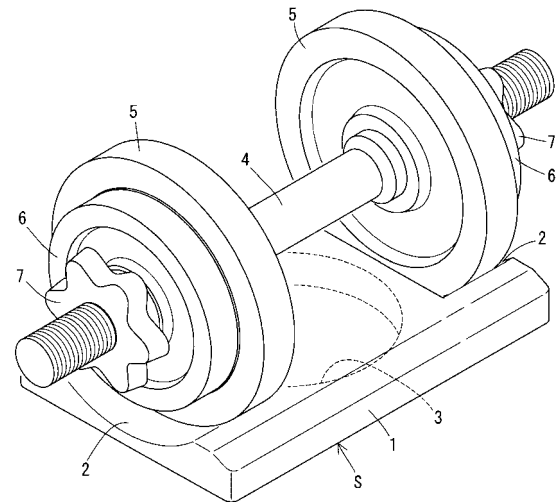
【図 1】



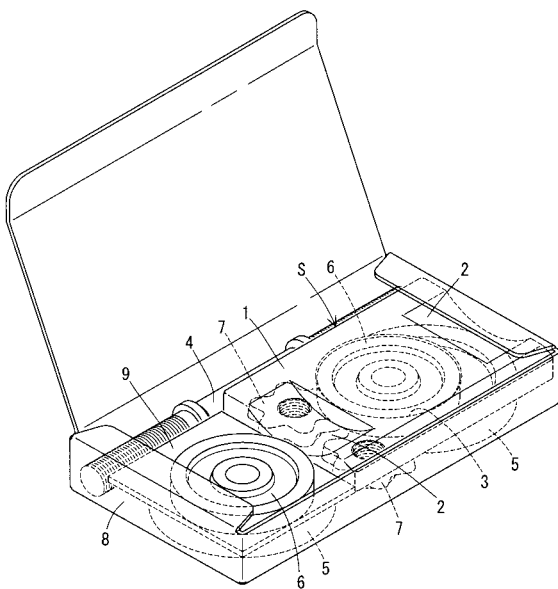
【図 2】



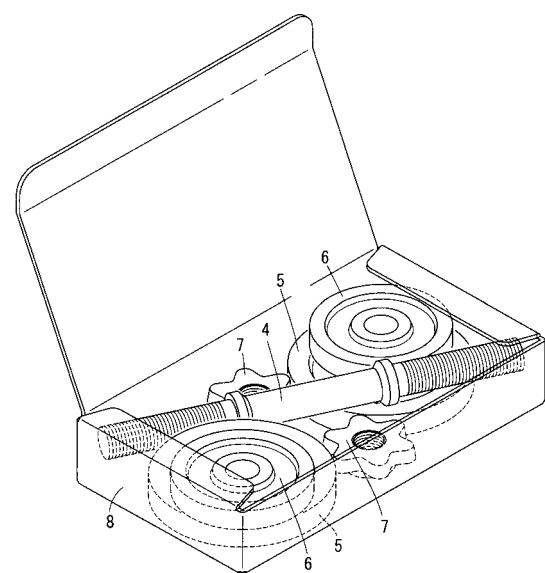
【図 3】



【図 4】



【図 5】



【図 6】

